

北海道旅行 5. 雪よ、岩よ、我らが宿り

旭川では朝食後すぐに三浦綾子記念文学館に出かけました。開館時間ではなかったため、外観を眺め、その背後にある、外国樹種見本林を見学しました。三浦綾子の作品を多くは読んでいませんが、彼女のテーマとストーリー・テラーとしての才能に魅かれてきました。最近、遅ればせながら「海嶺」を読みました。伊勢神宮の信仰の中で生きてきた回船の船乗りとして働く庶民が、思いがけず漂流の憂き目にあい、過酷な試練を経ても、帰国が叶わなかった物語です。キリシタン禁制下、国家と信仰の対立で翻弄される主人公・音吉たちの姿が描かれていて、非常に興味深かったのです。文学館を見るより、小説を読むべき、と言いながら、見本林を散策し、『氷点』の世界を味わいました。



続いて雅子さまが推奨の美瑛に向かいました。美瑛の美しさは、北海道の大地を開拓した農民の辛苦の結果生まれた、高原の畑の美しさです。ジャガイモ、玉ねぎ、麦、豆、トウモロコシ、ビートなど、土の中で育つ野菜の畑がパッチワークの丘と命名されています。「セブンスターの木」とマークされた畑の近くで農場主を呼び止め、話を聞きました。

あまりに過酷な気候の下での農作業、水の確保などに苦しみ、離脱する農民も多かったとのこと。「儲かっていますか？」との問いにびっくりされ、今も苦労の連続とのこと。また、四季彩の丘という花の丘も観光用に作られ、賑わっていました。美瑛は働く人の手が作りだした美の世界でした。



その日の最終目的地は雅子さまの絶賛お奨めスポット、旭岳です。朝には雲がかかっていましたが、「念力」を掛けたおかげでしょう。到着した時は晴天で、ロープウェイで標高 1600mまで登り、旭岳のカムイミンタラ(神々の遊ぶ庭)と名付けられた旭平散策路をゆっくり一周巡りました。旭岳は活火山。大雪山系の最高峰で、噴煙を上げ、雪渓を残し、いくつかの池もあり、高山植物も咲いています。

ここから旭岳の頂上までは2時間ほどの登攀とのことですが、雅子さまはきっと踏破したに違いありません。昨日は層雲峡を見ましたが、そこはちょうど旭岳の裏手になるはずです。

北海道では 1600m位で、森林限界とのことで、足元は岩場となりました。散策路では高山植物のキバナシャクナゲ、チングルマ、エゾノツガザクラ、エゾコザクラが満開でした。終わりに近いコマクサも可憐に咲いているのを見つけました。小さな花々が足元を彩り、旭岳を逆さに映す姿見の池も、噴煙の火口も、雪渓もすぐ近くにあり、見飽きることはありません。すべてに手を触れることはなく、ただ眺めました。さらに展望台があちこちにあり、大雪山系を遥かに眺められました。

山男、山ガールとすれ違います。ほぼ皆様が中高年。重いリュックを背負って、ストックを持って、難行、苦行の道なのに、大自然はなぜ人を魅了して止まないのでしょうか。アイヌの人々が自然の中に神の存在を信じ、大和人も奇石、巨木に神が宿ると信じて、自然を崇拜してきました。確かに人知では測りえないエネルギーを見ることになります。人の手ではなし得ない美を見ます。そういう大自然のなかに身を置く時に、人の小ささ、弱さを感じつつも、不思議な安らぎを味わいます。それが、山へと駆り立てられる思いになるのでしょうか。遭難者の慰霊のための鐘の音が時々聞こえました。

夜、旭岳温泉の黒い湯の花が浮かぶ湯に体を沈めて寛ぎました。真夜中に外に出て、満天の星を眺めることができました。こんなに小さな私でも、ここに、こうして生かされている、という不思議さと幸せを感じました。